



アメリカの政党政治

建国から250年の軌跡
岡山裕・著
中公新書 / 880円+税

二大政党制の理解に 歴史的な視座を

リベラルな民主党と、保守的な共和党とが大統領選挙で全面対決する——。だがそれは、表層的で近視眼的な見方にすぎない。実のところ各党のまともりは案外弱く、今日のアメリカ二大政党制は、その制度も対立の構図も、建国当初から大きく変容している。米国ではなぜ、特定の二政党が例外的にも見える政党政治を生み出しているのか。政党を理解せずして米国政治は語れない。新大統領が決した今、必読の通史。

エクソダス

アメリカ国境の狂気と踊り
村山祐介・著
新潮社 / 1800円+税



「壁」の狂乱の影で 移民たちは息絶えてゆく

なぜ移民は、アメリカの「壁」に押し寄せるのか。彼らはどこからやって来たのか——。アメリカ国境を起点に南下してその道筋をたどった著者は、厳しい自然環境と跋扈する犯罪組織の危険に直面しながら、中南米から陸路で米国を目指し、次々と命を落とす移民たちの姿を目の当たりにする。その現実と向き合う人々の証言は、手っ取り早く成果をアピールできる「特效薬」では解決し得ない、世界の不条理を厳しく突きつける。



外交官の使命

元駐日アメリカ代理大使回顧録
ジェイソン・ハイランド・著
野林孝行・訳
KADOKAWA / 2400円+税

日米関係を陰で支えた 米外交官が見た景色

圧倒的パワーを背景に、戦後国際秩序を主導してきたアメリカ外交——。それは単に力を振り回すばかりでなく、幅広い知識と経験を持つ外交官らによって支えられている。「実地に学べ」を是とする外交官たちが、華やかな首脳外交の裏で奮闘しているのだ。本書は首席公使としてケネディ駐日大使の補佐役を務めた著者が、自らが深く関与したオバマ広島訪問などの舞台裏を振り返る。米國務省の人材育成を知る資料としても興味深い。



ドイツ統一のプロセス 課題はなおも残った

東西ドイツの統一から三〇年。東ドイツ市民は平和革命によってドイツ社会主義統一党の体制を崩壊させ、選挙でドイツ再統一を選んだ。このプロセスには冷戦終結、欧州統一やポーランドとの国境問題など世界的課題が含まれている。いま東ドイツ市民は「自由を手にすることは今なお課題」とされるが、本書は現代ドイツ社会が抱える東西間の経済格差問題も描き、国際的・国内的観点双方からドイツ統一の全体像を捉えている。

ドイツ統一

アンドレアス・レダー・著
板橋拓己・訳
岩波新書 / 820円+税

国連、WHO、WTO……しばしば国際機構は加盟国の「傀儡」にすぎないと言われる。だが実際には、国際機構は自ら思考し、他の主体と相互作用する主体的行為者であり、主権国家の統制の及ばない力学が働くのである。本書は、国際機構間関係の一要素として欧州の人権保障体制を分析し、「国家中心的国際機構観」の超克を目指す。コロナ禍の現在、国際機構のあり方を問う上でも、本書の視座は示唆に富む。

国際機構間関係論

欧州人権保障の制度力学
大道寺隆也・著
信山社 / 5800円+税



国際機構が織りなす 「国際関係」を活写

一九九〇年代の経済自由化を皮切りに怒涛の経済成長を遂げ、さながら一九世紀の米国を彷彿とさせるインド。「金ぴか時代」から「革新主義時代」の転換は超大国への岐路。不平等がもたらす危機を克服できるか。著者がフィナンシャル・タイムズ記者として、現地での目撃に基いた超富裕層の出現、縁故主義、産業経済の負の側面を克明に記した本書は、「アジアの世紀」後半を先導せんとするインド社会理解の一步となる。

ビリオネア・インド

大富豪が支配する社会の光と影
ジェームズ・クラブツリー著
笠井亮平・訳
白水社 / 3200円+税



インド超富裕層の姿から 社会の実情を浮き彫りに